

1. 将来目標

(1) まちづくりの重点目標

まちづくりの主要課題や近年の社会環境の変化、また村上市総合計画で示されるまちの将来像などをもとに、村上市のまちづくりにおいて今後特に力を置くべき重点目標を設定します。

■まちづくりの主要課題

【まちづくりの方向性に関する課題】

- 定住人口の維持確保
- 高齢化が進む中での快適な地域社会の形成
- 活力ある地域社会の形成
- 豊かな自然の保全と活用
- 市民と行政の協働のまちづくり

【個別具体の課題】

- 旧来の市街地における空洞化への対応
- 集落の活力維持
- 計画的で効率的な土地利用誘導
- 市民の利便性・安全性を重視した都市施設配置と適切な維持管理
- 市民の足となる公共交通など、移動環境の再編
- 市民と行政の協働によるまちづくりの推進

■村上市を取り巻く社会環境変化

財政難（社会保障負担増、社会資本投資余力減）
地球環境問題の深刻化（CO₂排出増、ゴミ問題、緑の減少）
安全安心な社会への期待（大震災や水害への不安、食の安全等）
高度情報化（インターネット等情報技術の飛躍的発展）
国際社会との共生（食料、経済、金融、環境等）

重点目標設定の視点

高齢化が進み、これまで地域を支えてきた産業や街が低迷、さらに環境問題も顕在化する中、市民誰もが将来に不安を感じている。これからは、**村上市の強み**を最大限に活かし、市民が夢を持って安心して暮らし続けられるまちづくりを進めることが重要。

■まちづくりの基本姿勢

今あるものを活かし、高齢者を含めた全ての人が便利に安心して暮らし続けられる質の高いまち（コンパクトなまち）

「村上の強み」の要素

白砂青松・笹川流れ・お幕場・奥三面・三面川・荒川・岩船平野の農用地などの**自然環境**、武家町・町人町・寺町・城跡・塩谷・猿沢・小俣・鳴海金山などの**歴史文化**、北限の茶どころ・三面川の鮭・村上牛などの**食文化**、村上大祭・岩船大祭・瀬波大祭・人形さま巡り・獅子踊り・神楽舞などの**まつりイベント**、その他温泉・公園・産業施設・港・高速道路・各種市民主体の取組みなど。

※これまで地域にとってマイナスであった要素も柔軟な発想で貴重な「村上の強み」として活用していきます（例：荒川地域のだしの風など）。

■村上市のまちづくりの基本理念(総合計画より)

- ◇「創る」：(物事を作り出す 食を創る 賑わいを創る 芸術を創る …)
- ◇「育む」：(誇りを育む 人材を育てる 産業を育てる 伝統を育む …)
- ◇「広げる」：(笑顔を広げる 交流を広げる 多方面に展開する 将来につなげる…)

■村上市のまちの将来像(総合計画より)

「あふれる笑顔のまち村上」

「笑顔」には、「元気」や「健康」、「思いやり」、「楽しさ」、「活力」などが込められており、人が幸せであることの象徴といえます。「笑顔」に感じる姿やイメージは人それぞれに違いますが、「あふれる笑顔のまち」は、すべての人が幸せに暮らすまちであるという理想のまちです。

■まちづくりの基本目標

- (1) 子育てと健康のまち
- (2) 豊かで安心なまち
- (3) 魅力ある賑わいのまち
- (4) 人が輝く郷育のまち
- (5) 多様性が広がるまち

■まちづくりの重点目標

社会の潮流が大きく変化する中で、村上市が今後「魅力あるまち」として持続的に発展していくため、「若者定着」、「高齢安心」、「交流拡大」、「住み心地」、「安全豊か」、「市民協働」を6つのキーワードとし、重点目標を設定します。

若者定着

重点目標1. 若者が生きづく魅力的な暮らしのある村上市

村上の未来を支える若者が住み続けたいような都市の魅力をつくる

高齢安心

重点目標2. 高齢者が安心して生き生きと暮らせる村上市

街でも集落でも高齢者が安心して暮らし続けられる都市をつくる

交流拡大

重点目標3. 多様な交流による地域や人とのつながりを活かす村上市

村上の地域資源を活かし、多くの人が訪れ、交流のある都市をつくる

住み心地

重点目標4. 歴史文化が薫る豊かな自然に満ちた快適な村上市

城下町などの歴史文化と豊かな自然環境を活用した心地よい生活空間をつくる

安全豊か

重点目標5. 豊かな資源を活用し安全で暮らしやすい村上市

災害には強靱に対応し、地域資源を守り有効に活用した持続性ある都市をつくる

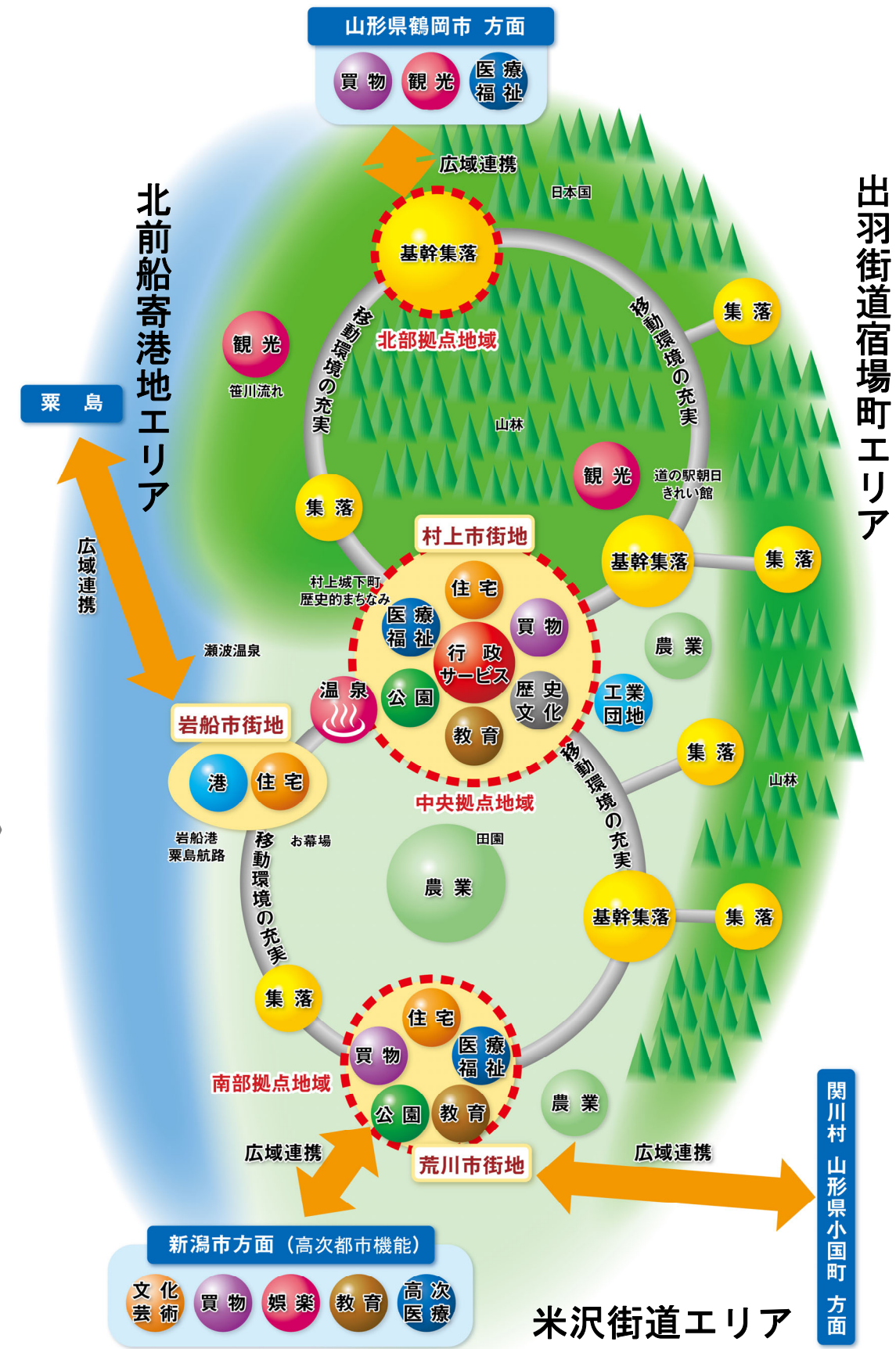
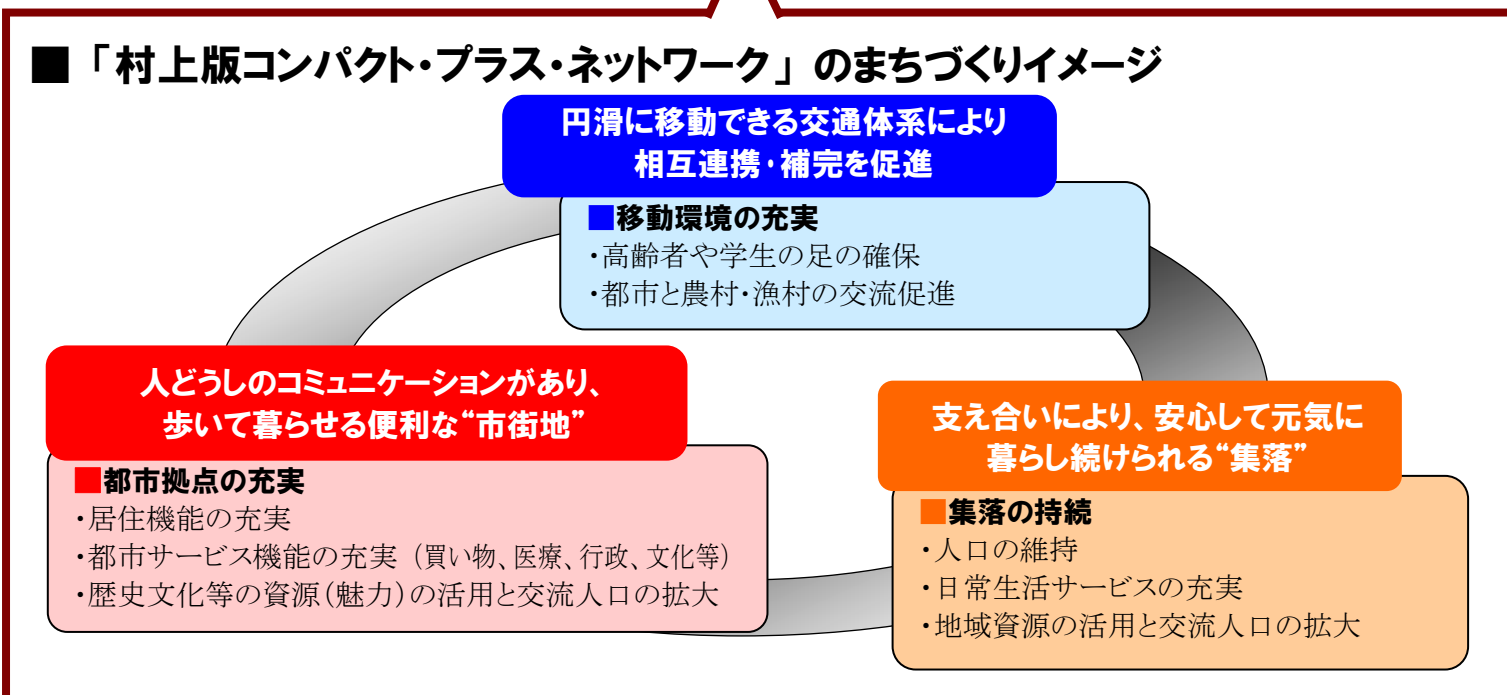
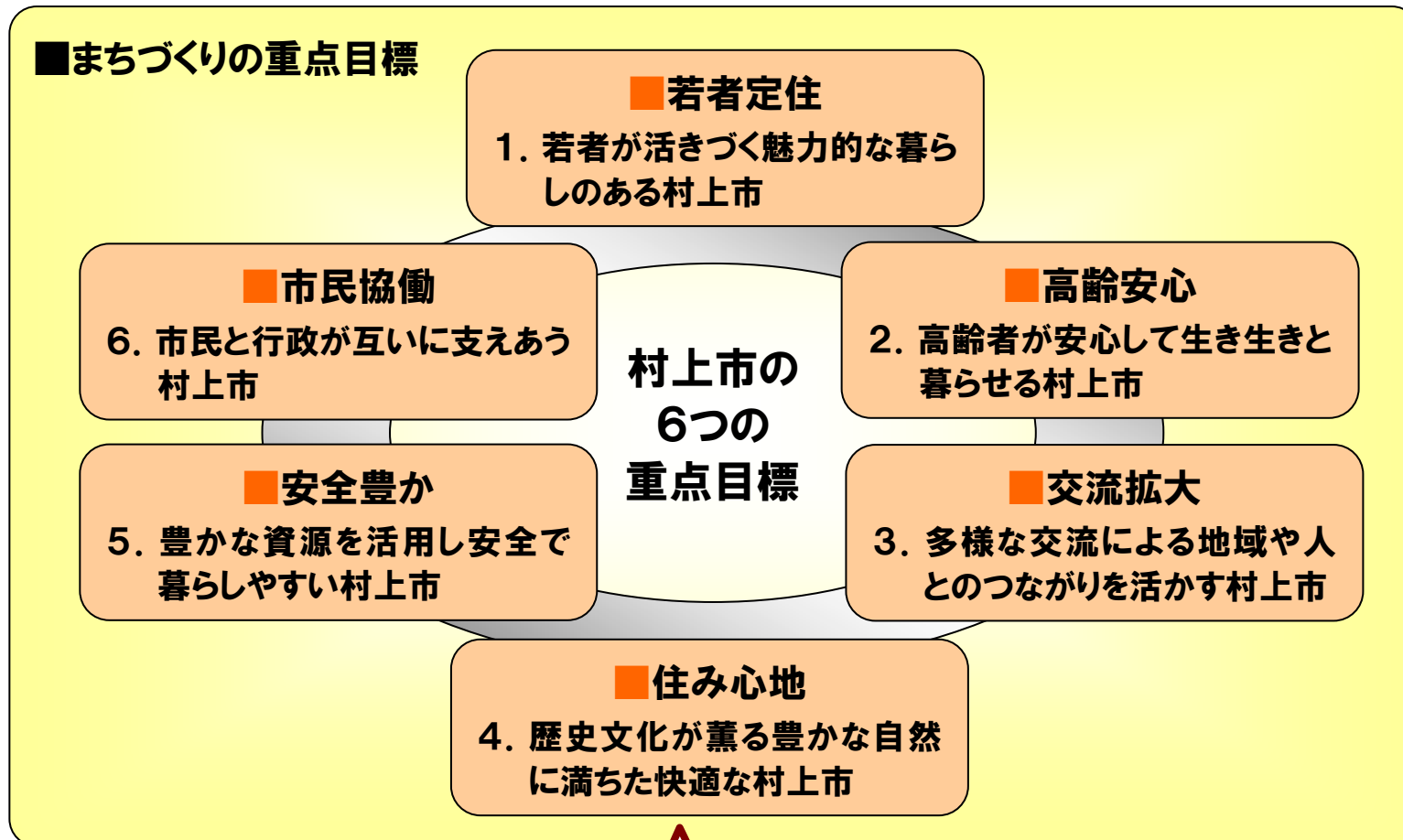
市民協働

重点目標6. 市民と行政が互いに支えあう村上市

市民と行政が互いに理解し支え合い、協働による持続可能な環境をつくる

(2) 都市の将来像

「まちづくりの重点目標」を実現するため、以下に示す「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考えのもとづき、「市街地」と「集落」が連携しながら、高齢者も含めた市民が便利で安心して暮らせるまちづくりを目指します。



村上市の将来像（イメージ）

2. 将来フレーム

(1) 将来人口の設定

【人口推移】

村上市の人口は昭和50年以降減少を続け、令和2年現在57,418人です。

【将来人口の推計】

第2期村上市人口ビジョン（令和3年3月策定）では、今後も人口減少が進んだ場合の村上市の将来人口は令和12年で49,350人であり、令和2年から10年で約8,000人減少することが予測されています。

しかし、政策努力によって以下の仮定1及び仮定2の状態を実現した場合、令和12年までに約750～2,300人の人口減少を抑えることができると推計されます。

仮定1：合計特殊出生率が2040年までに2.0まで、2065年までに2.2まで上昇

仮定2：2020年以降、5年間ごとに人口移動が50%ずつ縮小

【政策努力による成果を考慮した推計結果】

表2-2-1. 村上市の将来人口設定値

(人)

区分	H17	H22	H27 (基準年)	R02 (実績値)	R07	R12
①今後も人口減少が進んだ場合 ※社人研推計値					53,705	49,350
②施策により、人口減少を一定程度抑制できた場合 ※仮定1を実現した場合	70,705	66,427	62,442	57,418	54,140	50,108
③施策により、②以上に人口減少を抑制できた場合 ※仮定1・2を実現した場合					55,205	51,685

資料：国勢調査、第2期村上市人口ビジョン

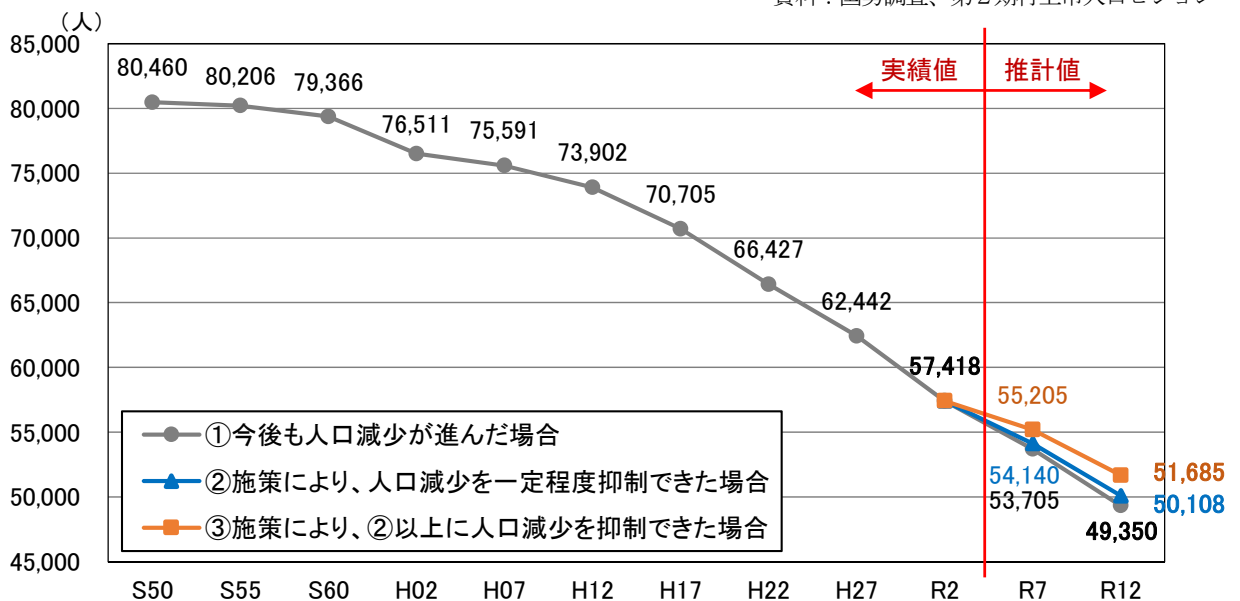


図2-2-1. 村上市の人口推移

資料：国勢調査、第2期村上市人口ビジョン

(2) 将来世帯数の設定

【世帯数・世帯人員の推移】

村上市の世帯数は平成 17 年以降減少傾向となっています。また、世帯人員は徐々に小規模化の傾向にあります。

令和 2 年現在の世帯数は 21,549 世帯、世帯人員は 2.66 人/世帯です。

【将来世帯数の設定】

将来世帯数については、村上市のこれまでの世帯人員の推移実績にもとづくトレンド推計により将来世帯人員を推計（最も相関係数が高い一次近似式を採用）し、これで将来人口を除することにより将来世帯数を求めます。

このまま人口減少が進んだ場合の将来世帯数は令和 12 年で約 20,911 世帯であり、令和 2 年の 21,549 世帯から 10 年で約 600 世帯減少することが予測されます。

しかし、政策努力によって人口減少が抑制された場合は、令和 12 年までに約 300～1,000 世帯の減少を抑えることができると推計されます。

表 2-2-2. 村上市の世帯数推移

(人/世帯, 世帯)

	H 17	H 22	H 27	R 02 (基準年)	R 07	R 12
世帯人員推計値	3.17	3.01	2.82	2.66	2.52	2.36
①今後も人口減少が進んだ場合	22,321	22,058	22,321	21,549	21,312	20,911
②施策により、人口減少を一定程度抑制できた場合					21,484	21,232
③施策により、②以上に人口減少を抑制できた場合					21,907	21,900

※世帯人員は小数点以下第 3 位で四捨五入して表示

資料：国勢調査をもとにした推計値

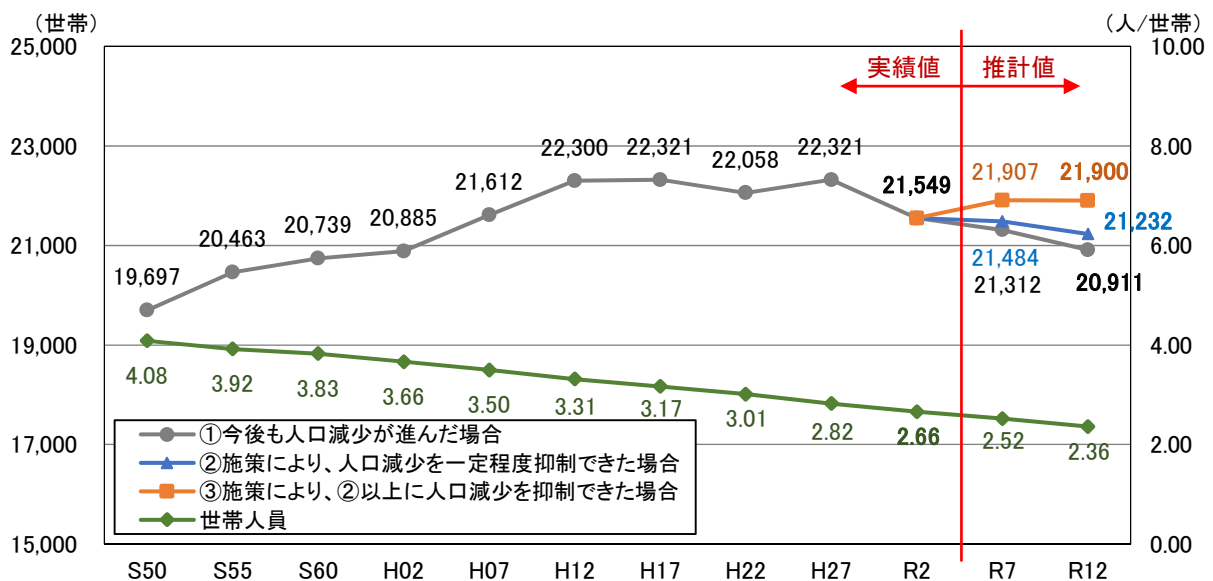


図 2-2-2. 人口・世帯数の推移と設定値

資料：国勢調査及び第 2 期村上市人口ビジョンをもとにした推計値